

文化ファッション大学院大学

平成 22 年度

ファッション・ビジネス系専門職大学院認証評価
評価報告書

平成 23 年 3 月

財団法人 日本高等教育評価機構

I 認証評価結果

【判定】

評価の結果、文化ファッション大学院大学は、日本高等教育評価機構が定めるファッション・ビジネス系専門職大学院評価基準を満たしていると認定する。

【認定期間】

平成 22(2010)年 4 月 1 日から平成 27(2015)年 3 月 31 日までとする。

【条件】

特になし。

II 総評

ファッション・ビジネス分野における先駆的な役割を果たす専門職大学院として、使命・目的は、学則に明確に定められており、使命・目的に基づいた教育目標は、大学院研究科に置かれた 2 つの専攻を軸として設定され、理論的教育と実務的教育を架橋する専門職大学院として適切である。使命・目的、教育目標は、ホームページをはじめとして、各種印刷物などを通じて学内外に周知されており、教職員の理解を得ている。

教育目標の達成に向けて教育課程編成方針は明確に設定され、理論的教育と実務的教育の架橋に留意した体系的教育課程が編成されている。教育目標にふさわしい教育方法も工夫され、単位認定基準、課程修了認定の要件なども適切に定められている。教育目標の達成状況を点検・評価するための組織的作業は行われているが、完成年度からの十分な年数を経していないこともあり、その教育成果を踏まえた今後の継続的な検証作業に期待したい。

アドミッションポリシーは、専攻ごとに明確に定められ周知されている。学習支援体制は、少人数教育という特色を生かして、専任教員の助言・指導を中心として、助手、事務職員のサポート体制も整っている。学生サービス体制は、学生生活委員会などの組織対応とオフィスアワーを設け、教員の個別対応が行われている。就職・進学支援などの体制は、インターンシップや資格取得について、「キャリア形成支援委員会」を中心に支援している。

教育課程を遂行するために必要な教員は、教員の組織編制の方針に基づいて配置され、専門職大学院設置基準を満たしている。教員の採用・昇任の基準は、教員選考基準や施行細則に基づいて定められており、教員の教育担当時間は適切に配分されている。教員の教育研究活動を支援する体制は十分とはいえないが、教育研究活動を活性化する取組みは行われている。今後は修了生社会人を教育の場で活用するなど、更なる活性化に期待したい。

教育研究目的を達成するために必要な施設・設備は、専門職大学院専用部分と法人共用部分を併せて整備されている。その多様な附属機関と研究施設は、学内外の研究者をはじめとして広く活用されている。また、施設・設備の安全確保や維持、管理の組織的体制は整っており、基本的に問題がないと認められるが、一方で、施設の耐震対策や環境のバリアフリー対策などに、継続して計画的に取り組むべき課題も残している。

自己点検・評価の恒常的な実施体制は、「文化ファッション大学院大学自己点検・評価規

程」及び「自己点検・評価委員会」において整備されており、教育の実施状況を調査し反映する体制は整っている。また、評価結果を教育の改善・向上につなげる努力は行われており、ホームページなどで社会に公表されている。しかし、高度専門職業人を育成する専門職大学院としての教育成果については、評価基準が必ずしも一定でないことから、継続的な検証作業を行う必要がある。

総じて、専門職大学院としての使命・目的、教育目標と教育内容は、生活の根幹をなす「衣・食・住」の「衣」の分野において、旧来の家政学的方法を超える産業学的方法によりファッション・ビジネスの専門分野を確立するためのプログラムとして設定されている。その教育機関の先導者としての役割は極めて重要なものであり、今後の発展が期待される。

Ⅲ 基準ごとの評価

基準 1. 使命・目的、教育目標

【判定】

基準 1 を満たしている。

【判定理由】

ファッション・ビジネスの分野における開拓者の役割を担う専門職大学院として、その使命・目的を学則に明確に定めている。大学院研究科に置かれた 2 つの専攻別に定められた教育目標は、専門職大学院として掲げた使命・目的を具現化するために適切なものと判断できる。ファッションビジネス研究科という名称のもとに、知財創造ビジネスの新たなビジネスモデルを確立する人材及びグローバルな視点に立って独自のブランドを確立できる人材を育成することを使命・目的とし、理論と実践に架橋する教育内容は、ファッションクリエイション専攻及びファッションマネジメント専攻の教育課程として適切に構成され、教育目標は、専門職大学院ホームページをはじめとして、専門職大学院入学案内などの印刷物を通じて学内外に周知されている。

使命・目的、教育目標は、教職員に十分理解されていると認められるが、専門職大学院という機能から、更に産業界における認知、社会的認知を得る努力に期待したい。

基準 2. 教育課程

【判定】

基準 2 を満たしている。

【判定理由】

教育目標である「知財創造ビジネスのビジネスモデルを確立する研究を行い、国際的に通用するファッション価値を創造・具現化させ、グローバル視点に立つ独自のブランドを確立できる人材育成」の達成に向けて、教育課程編成方針は明確に示されている。

ファッション分野の専門職大学院として、ファッションビジネス研究科に、ファッショ

ンクリエイション専攻とファッションマネジメント専攻が設置され、講義・演習・プロジェクト科目による理論的教育と実務的教育の架橋に留意した体系的教育課程が編成されている。また、教育目標にふさわしい教育方法も工夫されており、単位認定基準や課程修了認定の要件、学位の名称も適切に定められている。

社会に向けた教育成果発表の場を設けるなど、教育目標の達成状況を点検・評価するための努力は行われているが、専門職大学院としての教育成果の検証のためのより一層の工夫に期待したい。

基準 3. 学生

【判定】

基準 3 を満たしている。

【判定理由】

アドミッションポリシーは「グローバル化している今日のファッションビジネスの世界で、知財創造ビジネスモデルを確立し、国際的に通用するデザイン価値を創造・具現化させ、独自のブランドの確立を目指す者を受け入れている」と明確に定められ周知されている。募集要項やホームページなどで社会にも公表されている。入学者選抜においては、入学者数及び在籍者数は、年々増加する傾向にあり、定員数確保への努力が見られる。

院生への履修指導や学習支援は、専攻長、コース主任が中心となりプロジェクト科目担当教員（ファッションマネジメント専攻経営管理コースでは専任教員全員）で行い、結果として院生の高い満足度に結びついている。学習支援のための学校法人文化学園共有の附属機関は、図書館、服飾博物館、「ファッションリソースセンター」などがあり、院生が各種資料を自由に閲覧できる学習環境及び研究体制が整えられている。実務家教員を含む専任教員全員が研究指導・ゼミ指導及び学校行事参加を行っている上、実務家教員による現場の状況を踏まえた実務教育が院生の研究を側面から支援している点については、専門職大学院の特徴的な学習支援であると認められる。

教員と院生のコミュニケーションの密度が高く、各種行事などで院生の声をくみ上げ、院生の意見などを専攻会議や各種委員会に提示している。オフィスアワーを設け、専任教員が必ず在室し院生の個別相談に応じている。更に、院生への経済的支援についての相談・支援体制を整備している。

基準 4. 教員

【判定】

基準 4 を満たしている。

【判定理由】

専門職大学院設置基準が定める必要専任教員数を上回る教員を配置し、実務家教員についても必要実務家教員数を上回る教員が確保されている。大学院教育の中核になるプロジ

ェクト科目については、いずれも専任教員が担当し、特色ある少人数教育を行っている。

教員の採用・昇任については、教員選考基準・同施行細則・教員評価基準項目に明確に定めており、教員選考委員会が昇任・新任候補者の業績審査を行っており適切に運用されている。専任教員の業務の負担を軽減するために、助手を採用し、教員の授業補助・研究支援体制をとっている。

教育研究活動を活性化するために、FD(Faculty Development)委員会による授業評価アンケート、「キャリア形成支援委員会」による修了生アンケートが実施されており、更に年1回の教員全員参加の研修会などを行っている。

基準 5. 教育研究環境

【判定】

基準 5 を満たしている。

【判定理由】

教育研究目的を達成するための校地及び施設・設備は適切に維持、管理されている。また、附属機関である図書館、博物館、「ファッションリソースセンター」などの教育環境は、充実しており院生の専門的教育研究の場として有効に活用されている。また、研修施設は、学生交流や各種セミナー、研修の場として、学生寮も国際交流の場としての中心的な役割を担っている。ただし、専門職大学院専用部分と学園共用部分の区別が不明確であるので、院生の教育研究環境のより一層の充実に期待したい。

施設・設備の安全確保や維持、管理については、定期点検、自己点検、防犯カメラの設置など、管理委託会社との連携を密にしながらキャンパスの安全性を確保する取組みが行われている。将来構想において、バリアフリー対策や耐震対策なども計画として挙げられているが、早急に実施に向けての方策を立て、安全性の確保に努めることを期待したい。

【参考意見】

○既に実施された建物の耐震診断に基づく耐震対策が行われるとともに、キャンパスの総合的な耐震対策が行われることが望まれる。

基準 6. 教育の質の保証

【判定】

基準 6 を満たしている。

【判定理由】

自己点検・評価を行うための規程を整備し、その規程に基づいて「自己点検・評価委員会」を設置し、そのもとで自己点検・評価を実施する組織としてワーキンググループが置かれており、実施の役割分担及び責任体制が明確になっている。

院生に対しては、各種学外コンテストへの参加を積極的に奨励しており、ファッション

デザインコースでは各種学外コンテストへの参加、ファッション経営管理コースでは、学外起業コンテストへの参加、ファッションテクノロジーコースではパターンメイキング検定1級の取得を奨励するなど、学習の成果について外部から評価を受ける仕組みを設けている。

FD(Faculty Development)委員会による授業アンケート、「キャリア形成支援委員会」による修了生アンケートなどはいずれも授業改善に有効なものとなっている。また、授業アンケートでの要望をもとに新設した科目もあり、調査・分析結果を改善に生かしている。

【優れた点】

○専門職大学院の使命・目的を周知する場としての「文化ファッション大学院大学ファッションウィーク(BFGU FW)」は、教育目的と成果を学内外に公表し、社会的評価を受ける仕組みとして優れたものと高く評価できる。

